

脳内出血

(高血圧性、脳血管の奇形によるもの)

脳梗塞とほとんど同じような症状が、急激に起こるもので、場合により頭痛と伴い、意識を失ってしまう場合もある。中高年の高血圧を有するひとに多く発症するが、高血圧のない人や、若い人に発症する場合には、脳血管の奇形（先天性）が破裂しておこした可能性も念頭におく必要がある。高血圧の管理および、血管の奇形はMRAで確認することができる。発症した場合は、専門病院での、治療が必要となる。

くも膜下出血

急激に発症し、激しい頭痛、嘔吐を伴い、場合には、意識を失うという症状で発症する。98%は救急車で、病院に搬送され、診断治療されるが、時に、歩いて外来を受診し、頭痛が軽い場合がある。この場合は、軽いくも膜下出血をおこした場合であるが、再破裂は、きわめて危険であるので、感冒による頭痛と間違わない必要がある。CTやMRIの断層の検査が必要である。くも膜下出血は、脳動脈瘤という、動脈の分岐部にできる血管のコブが破裂しておこすもので、破裂すると、時により、意識がないような重篤な状態になることがあり、手術治療をしても、死亡する可能性が高くなる。このようなことから、破裂する前に脳動脈瘤を診断する必要があり、MRAが有効である。

